

J-PARC NEWS

Japan Proton Accelerator Research Complex

大強度陽子加速器施設

平成25年8月30日発行

発行元: 日本原子力研究開発機構・高エネルギー加速器研究機構

J-PARCセンター

〒319-1195 茨城県東海村白方白根2-4 Tel: 029-284-3731

1. J-PARCハドロン実験施設における放射性物質漏えい事故検証に係る有識者会議

J-PARCハドロン実験施設の放射性物質漏えい事故を検証する有識者会議の第6回会合が、8月22日に都内で開催されました。J-PARCセンターが示した事故再発防止策および安全管理体制の強化策、緊急時の対応手順などが審議され、それらが妥当とする答申がまとめられました。また、有識者会議よりJ-PARCセンターが答申の内容を早急に実施すること、安全確保を前提とした組織・体制の構築を行うこと、地元や社会などの理解を得ることを強く求められ、最先端の研究成果を上げる事が出来る施設へ早期に復帰するよう望まれました。8月27日には、東海村で矢野安重委員長より、有識者会議を設置した高エネルギー加速器研究機構(KEK)および日本原子力研究開発機構(JAEA)の長に対し答申書が手渡されました。



答申書手交式の様子
(矢野委員長、鈴木KEK機構長、横溝JAEA理事)

2. ハドロン実験施設の事故に係る法令報告書(第三報)を原子力規制委員会へ提出

8月12日、高エネルギー加速器研究機構と日本原子力研究開発機構は、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律に基づき、「大強度陽子加速器施設J-PARCハドロン実験施設における放射性物質漏えいについて(第三報)」を原子力規制委員会に、また、茨城県の原子力施設周辺の安全確保及び環境保全に関する協定書に基づく「事故・故障等発生報告書(第三報)」を茨城県、東海村などの関係自治体に提出致しました。本報告は、6月18日に提出しました法令報告第二報に続くもので、これまでの調査に基づき明らかになった問題点と検討結果などをさらに精査し、また、有識者等の意見も反映させて事故検証、再発防止策などについてまとめたものです。

3. 第10回日本加速器学会年会

8月3~5日、第10回日本加速器学会年会が名古屋大学豊田講堂で開催されました。初日のプログラムの最後に「J-PARCにおける放射性物質漏えい事故に関する説明会」と題する特別セッションが設けられ、小関忠J-PARCセンター加速器ディビジョン長が詳細な事故説明を行いました。約230名が聴講し、多くの質問が寄せられました。また、口頭発表講演では、50GeVシンクロトロン(MR)関係者の富澤正人氏(KEK准教授)がハドロン事故の原因となったMRの遅いビーム取出し電磁石の誤作動に係る調査状況や再発防止策の検討状況などについて報告しました。



J-PARC事故に係る特別セッションの様子

4. 中性子産業利用推進協議会平成 24 年度成果報告会(7月22日、東京)

中性子産業利用推進協議会の平成 25 年度総会および平成 24 年度成果報告会が、約 150 名参加のもと、東京秋葉原コンベンションホールにて開催されました。成果報告会では、池田裕二郎 J-PARC センター長が、最新のニュートリノ研究成果「電子型ニュートリノ出現現象」(7/19 プレス発表)について、また、5月23日に発生の「J-PARC ハドロン実験施設の放射性物質漏えい事故」について報告しました。事故に関しては、施設利用者の放射線被ばくについてのお詫びや、信頼回復に向けた取組みを進める決意などを述べました。



J-PARC 事故に係る報告をする池田裕二郎 J-PARC センター長

5. 第 2 回 ANNRI(中性子核反応測定装置)研究会(8月23日、東海村)

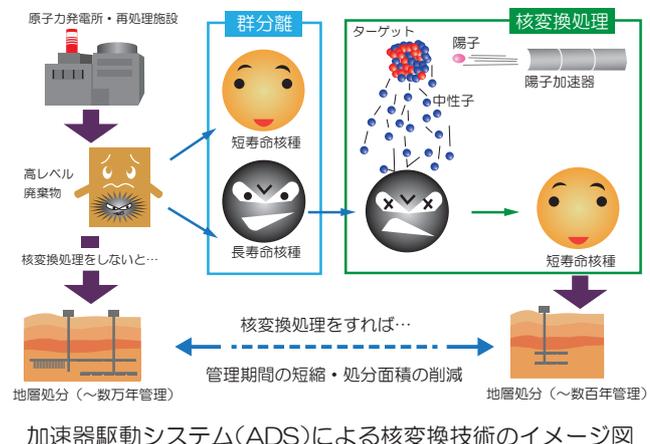
JAEA 基礎工学研究部門主催の標記研究会が、いばらき量子ビーム研究センターで開催され、冒頭挨拶で、池田裕二郎 J-PARC センター長がハドロン実験施設の事故に伴う、物質・生命科学実験施設(MLF)の利用運転停止のお詫びなどを述べました。また、研究会では初めに、「J-PARC /MLF の現状」と題して、曾山和彦 J-PARC センター中性子基盤セクションリーダー(新井正敏物質・生命科学ディビジョン長代理)が、MLF の安全体制などの見直し状況などについて報告しました。



研究会の様子

6. 群分離・核変換技術評価作業部会、第 1 回会合を開催(8月7日、文部科学省)

長寿命放射性廃棄物の処分に関して、東京電力福島第一原子力発電所事故以降、国民的関心が更に高まり、群分離・核変換技術研究が注目されてきています。このような情勢の中、今年7月に文部科学省科学技術・学術審議会に群分離・核変換技術評価作業部会が設置され、第1回会合が開催されました。会議では、国内外の研究状況が報告され、核変換技術研究のため加速器駆動システム ADS (Accelerator Driven System) による核変換などについて意見交換が行われました。ADS は、J-PARC の建設当初より、その必要性を提案し続けてきたものです。今後は、核変換実験施設整備などの必要性や有効性、欧州ベルギーで進む ADS 実証を狙った MYRRHA 計画、その他国際的な連携等について議論が進められ、今年10月下旬には中間報告書が取りまとめられる予定です。



7. ご視察等

- 8月 2日 西田亮三 文部科学省 研究開発局原子力課放射性廃棄物企画室長
- 8月13日 工藤雄之 文部科学省 科学技術・学術政策局研究開発基盤課量子放射線研究推進室長、他